

郡山地域テクノポリスは、あたかも航海の指針となる南十字星（サザンクロス）のように「21世紀に花開く東北の時代」を先導する地域となることをめざします。

●編集発行 財団法人 郡山地域テクノポリス推進機構

郡山地域ニューメディア・コミュニティ事業推進協議会

〒963-0101 福島県郡山市安積町日出山字北千保19番8 ビッグバレットふくしま3階 ☎(024)947-4400 FAX(024)947-4475

■ホームページのアドレス <http://www.techno-media.net6.or.jp>

■Eメール [テクノ] techno@nm.net6.or.jp [ニューコム] info@nm.net6.or.jp



Techno Topics

ユニバーサルデザインフェア開催 過去最高の97団体が参加

テクノポリスでは、福島県デザイン振興会、郡山商工会議所と実行委員会を組織し、「03ユニバーサルデザインフェア」を9月19日(金)から21日(日)までの3日間ビッグバレットふくしまで開催しました。

ユニバーサルデザインはモノづくりや日常の生活様式などについて、年齢や性別、障害の有無などにかかわらず、全ての人々が安全、安心、快適に生活できる社会づくりを目指すもので、近年これからの取り組みが企業、公共機関等に浸透しています。

今年も地域産業の活性化、そして県内唯一のユニバーサルデザイン普及啓蒙イベントとしてフェアを開催しました。

今回のイベントは、やさしさを包む、うつくしさをメインテーマとして、産業・教育・創造・ホビーカーチャ・飲食の5つのゾーンに分け、デザインの製品、サービス、システムなどを一同に展示、体験できる内容でした。

過去最高の97企業、団体が参加し、ユニバーサルデザインの考えを様々な形で提案しました。

天然材で資源循環を目指した住宅、車椅子を簡単に積み下ろしできる介護車両やバス、パソコンソフトなどの展示紹介がありました。

さらには、小中学生のユニバーサルデザインを題材とした作文・絵画展や障害を持った方や高齢者などのユニバーサルデザインファッショニングショーなど、子供からお年寄りまで全ての方々に参加できる新企画が盛り込まれました。

産業、教育、ホビーカーチャ各部門の展示の中から、モノづくりにおけるデザインの重要性を広く知ってもらうため、デザイン性の特に優れた出展に対し、最優秀賞など15点の賞が実行委員会から贈られました。各賞の受賞団体は次のとおりです。

○最優秀賞
ふくしま森の遊学舎「地産産による住まいづくりの提案」

○産業部門優秀賞
しいね産業(株)「瓦、建築資材、園芸、造園関係の展示」
(有)ビートル健康住宅、シツクハウスにならない家造りの原理、模型やパネル、ビデオ等での説明
有料老人ホーム涼風苑飯坂
流水風呂の展示
福島交通(株)「低床バス、リフト付貸切バスの展示」
プロモーション(有)「手作りの洋服、アクセサリーなどのユニバーサルファッショニング類」

○教育部門優秀賞
会津大学「誰でも使えるメールソフト」
福島県立二本松工業高等学校「家具、照明器具、絵本、写真集等のユニバーサルデザイン作品の展示」
○ホビーカーチャ部門優秀賞
すだちの会「ユニバーサル関連オリジナル商品の展示」
趣味の店くらしき「楽しい食卓の提案」
あだち共育育成園「木工製品の展示」
兆春塗「折笠うるし工房、塗芸品、菓子器、花器等の実用漆器」
富三窯「陶芸作品、色絵、染の食器等の展示」
(社)日本編物文化協会福島県本部「手作りニットの作品展」
うるし粘土普及会「うるし粘土成型品の展示」

テクノポリスのブースでは、昨年度ユニバーサルデザイン普及のため取り組んだ「ユニバーサルデザイン」の概要報告をパネルで展示紹介し、ユニバーサルデザインの普及啓蒙を行いました。

また併せて、今年発足した「炭」の研究会の参加企業企業との多用途にわたる炭製品の紹介を行いました。

郡山地域ニューメディア・コミュニティ事業推進協議会では、同じブース内に今年の8月開催した郡山地域ホームページ



最優秀賞「ふくしま森の遊学舎」の展示



にぎわう会場内

ジコンテスト「Web・Net6大賞」のコーナーを設け、誰もが見やすく使いやすいデザイン構成技術やWeb技術など多面的な視点から審査をした受賞作品を紹介しました。

21日(日)の最終日は、午後1時と3時の2回、会場内ステージでユニバーサルデザインファッショニングショーが行われました。

県内9つのデザイン関係専修専門学校や出展関係企業が参加し、年齢、体格、障害などに関わらず、着やすさ、着心地、機能的なユニバーサルファッショニングを紹介しました。

20日(土)、21日(日)は、台風の影響もあり低温、雨の天気と悪条件が重なりましたが、昨年の7000人を上回る9100人の来場者があり、大盛況のうちに閉幕しました。

また、今年のユニバーサルデザインフェアは、福島県が主催した「ふくしまユニバーサルデザイン国際シンポジウム」も同時開催され、ユニバーサルデザイン浸透への相乗効果を図りました。UDIイメージキャラクターの発表や佐藤知事の記念講演、基調講演では、「ユニバーサルデザイン×共生への道しるべ」と題してドイツ・ケルン大学教授 ワルター・ドレーアー氏による障害のある人もない人も共に学ぶドイツの統合教育の話を中心に心のユニバーサルデザインについて講演がありました。



企業の展示紹介

Web・Net6大賞。 郡山地域ホームページコンテスト

「Web・Net6大賞。」郡山地域ホームページコンテストの表彰式が9月19日から3日間の日程で開催された「03ふくしまユニバーサルデザインフェア」の中で行われました。

「Web・Net6大賞。」はテクノポリス圏内6市町(郡山市・須賀川市・鏡石町・石川町・三春町・玉川村)でのインターネット活用を拡大してもらうこと、Web技術のより一層の向上を図る目的で開催し、8月1日から8月31日までの約1カ月の間の募集に、各市町村の企業、団体、個人、公共機関、教育機関などから全83作品の応募がありました。

6名の審査委員、8名の企画運営委員による厳正なる審査のもと各賞が決定されました。

各賞の受賞者は次のとおりです。

▽大賞 福島県酪農協同組合乳業部(ギョウギユウ、郡山市)▽優秀賞(財)ふくしま科学振興協会(ムシテックワールド、須賀川市)▽ユニバーサルデザイン奨励賞(有)降矢農園(ふるや農園からのメッセージ、郡山市)▽Eコマース部門賞(アトフラーワーショップ&スクール花彩夢(アトフラーワーショップ&スクール花彩夢、郡山市)▽企業団体部門賞(有)仁井田本家(金寶自然酒醸造元仁井田本家、郡山市)▽個人趣

味部門賞(坂路匠(弁当8丁目、郡山市)▽教育機関部門賞(国際情報工科大学、WIZ国際情報工科大学、郡山市)▽公共機関部門賞(郡山市ふれあい科学館スペースパーク、郡山市ふれあい科学館スペースパーク、郡山市)▽審査委員特別賞(有)デザインハウス東条(CITY見る「飲食図鑑」、郡山市)、日本野生メダカ保存会(野生メダカのホームページ、須賀川市)、マノアツサ(#HEARTS、郡山市)

受賞作品、エンタリー作品については専用サイトでご覧いただけます。
URL:<http://www.webnet6.or.jp/>



表彰式の模様



大賞を受賞した福島県酪農協同組合乳業部の作品

韓国ウオンジユ市医療機器テクノハレー誕生の道 〜新産業創出日韓シンポジウム〜

7月30日、ビッグパレットふくしまにおいて韓国ウオンジユ市で取り組まれている延世大学を核とした医療機器産業創出の取り組みを紹介するとともに医療福祉分野における新産業創出について考えるシンポジウムを開催しました。韓国延世大学は韓国の私立の名門校でソウルに第1キャンパス、ウオンジユ市に第2キャンパスを持つています。また、ウオンジユ市の人口は30万人、ソウルから高速道路で1時間半と郡山市とよく似ています。

初めに延世大学の李智圭(リ・チヨルギョ)教授が産学官の連携で生み出された医療機器産業について講演しました。

李教授は医療機器産業を創出しようとした背景について「自然は美しく、文化は優れているが産業の面では特に目立ったものはない。軍事都市、消費都市、人口の少ない田舎というウオンジユのイメージを健康で、先端的、国際的な都市のイメージに変えよう」と医療機器産業を育成することとし、また、大学にも危機感が

研究開発の苦心を聞く!! 「テクノ・ニュー・ス」形成会議 会員交流会」 が開催されました

2回目となる「アラライアンス」形成会議会員交流会が開催されました。

最初に、東北経済産業局製造産業課課長補佐の中井孝明氏が経済産業省のクラスター計画について説明を行う、ついで、産業技術課課長の藁谷尊氏が、各種の産業支援施策メニューとその活用方法について説明にも様々な種類があり、ある施策に該当しなくても他に該当する場合があるので、相談して欲しいと、企業の積極的な施策利用を促していました。

続いて、テクノがコーディネーターしている研究開発の概要について事務局からの説明を間に挟み、実際に研究開発に取り組んでいる、早川工房代表の早川仁之氏と合資会社「ミック」の代表の山寺伸二氏から、研究開発を行うに至った経緯と研究開発の過程における問題点等についてお話しいただきました。

実際に取り組んだ方の意見には説得力があり、当日参加した会員30名もメモを取りながら熱心に聞き入っていました。

最後に、事務局から最近の下期け受発注の現状と受注対策についての説明を受け、会を終了しました。

アラライアンス形成会議では、今後この交流会のような場を提供していきたいと考えております。



「テクノ・ニュー・ス」形成会議 会員交流会の様子

もに医療機器企業の協力会社も誘致して自給自足の産業団地を形成したい。海外の企業も誘致し、世界的な医療機器産業都市を目指したいと期待を込めて語りました。

次に会津大学の田中伸明客員教授が中小企業が狙うヘルスケアのビジネスチャンスについて話をしました。先生は中小企業だからできること、ヘルスケア領域には大きなビジネスチャンスがあることを指摘。

「中小企業は意思決定が早い、地域社会と密着している。変化への対応が迅速、小さな新規事業に取り組みやすい」という利点があり、変化の激しい新しい領域で住み生活に関わる商品サービスは迅速な開発が可能である」と中小企業だからできること強調し、ヘルスケア分野ではビジネスチャンスがある。高度な医療対応、医療機器開発だけでなく、高度な技術、高額投資が必要でもない。医師や専門家が必要と多い。医師や専門家が必ず必要という点も、高い参入障壁があるとか大企業で

「テクノ・ニュー・ス」形成会議 「自然エネルギーのハイブリッド利用」

研究開発・新事業創出を目指し、大学や試験研究機関の持つ技術シーズを広く圏域内の企業に公開し、ビジネスチャンスとしてもらうことを目的に開催している「テクノ・ニュー・ス」アップセミナー。

今回は、「自然エネルギーのハイブリッド利用」をテーマに、8月22日(金)日大工学部で開催し、40名が参加しました。

近年、自然エネルギーを利用したクリーンな太陽光発電、風力発電、小規模水力発電が注目され、世界的に研究開発が進み着実に実用化へ方向へ動きつつあります。日本においても電力買取制度や国の助成制度が整備され、自然エネルギーを利用しての発電システムの販売が始まるなど、身近な研究開発テーマとなっています。

日大工学部今年、太陽光発電と風力発電のシステムが導入され、学内で研究も活発に行われるようになり、

「日産自動車 栃木工場視察」 アドホック研究会

郡山と須賀川方面のアドホック研究会は、合同研修事業として日産自動車栃木工場を視察しました。

日産自動車は、カルロス・ゴーン社長の手腕により業績がV字回復し、日本企業の中でも注目を集めています。

栃木工場は、宇都宮郊外の河内郡上三川町にあり、敷地面積約293ha、従業員数6100名(開発部門含む)、生産品目車種は、シマ、スカイライン、セドリック等7車種で主に日産の高級車を海外輸出も含め生産しています。

工場敷地内には、全長6.5kmの高速耐久テストコースの他、高速水路や石畳などの様々な環境条件を想定した各種テストコースがあり、数々の厳しい実験が行われています。

全国にある6工場のうち最も規模の大きい栃木工場の組み立てライン、車体ラインを視察し、効率の良い製造ラインや環境に配慮した工場施設整備などを見学し、有意義で充実した研修でした。

特に従業員ひとりひとりが自信を持って、仕事に取り組み姿勢を肌で感じ、品質が高く、安心して乗れる車生産メーカーへの理解がより深まった一日でした。

ないとききないというのは限られた分野である。ヘルスケアには保健予防医療、介護福祉のステータジがあり、今後、介護予防の分野に大きなお金が動く」と視点を変えれば大きなビジネスチャンスがヘルスケア分野にはあると解説しました。

最後に、李教授、田中教授、日大工学部の尾藤教授、産学連携、日産自動車から参加者からの質問も交えたこの鼎談では、延世大学が医療機器産業をウオンジユで生み出すために政府に対して何度かプロポーザルを行ったこと、中央を動かすことでこのプロジェクトがスタートしたこと、どのよう医療分野に特化するべきか決めるために、延世大学の先生方が手弁当で世界中の医療の現場をまわって調査してプラントに医療機器の認可や品質管理の専門家をおいて中小企業の手助けをしていくことなどが明らかになりました。医療機器産業創出に大学が大きなインシアティブをとり、また、大学の先生がセールスマンになって取り組んでいることが、このような成功事例を生み出したのだと感じました。

「IT産業CTリーニャー」 前期2講座

テクノ・ニュー・スでは、福島県からの補助を受け、民間企業と大学の産学連携を2講座開設し、受講者のほぼ全員が修了証を手にしました。

この講座は、IT分野の実務スキルを問う世界的な情報処理認定資格(CompTIA)の対策を内容としており、IT推進による高度化を図るため、単に技能を修得するだけではなく、実践的な知識や知恵を身につけることを目的としています。

7月8日・9日17日まで平日夜間、日本大学工学部を会場に行われました。

受講者の職種は、企業従業員、自営業公務員などさまざまです。毎日、平日の夜間(午後6時から9時まで)を活用し、長時間の多岐にわたる学習内容でしたが、受講者はほぼ全員が積極的に受講し、最後まで頑張っていました。

今回のNetwork+受講者からは、早速9月の試験を受験し合格したとの連絡がありました。他の受講者の方々から合格の連絡を期待したいと思えます。

なお、Network+講座は、後期(日程未定)の開催も予定しています。詳細内容が固まりましたらホームページ上に掲載しますのでご覧ください。

産学連携が一段と進む環境にあることから、「次世代工学技術研究センター」、「環境保全・共生共同研究センター」、「設見学」をした後、「将来は新江戸時代の暮らし」と題して日大工学部渡辺弘一助教授から講演いただき、意見交換を行いました。講演の中で渡辺助教授は、「江戸の生活はものを大切にしたりサイクル方針が徹底されている。現代でも見習うべき点がある。エネルギー消費のあり方については、過剰なエネルギー利用ではなく、少しだけ余裕を持ったエネルギーの導入等を考えていかなければならない。環境を侵すことなく自然とのバランスをとり、エネルギー消費生活を行わなければならない。そのような中で考えられている太陽光発電、風力発電、小水力発電等の再生電力は、不安定であるので、蓄電技術、ハイブリッドシステム技術が必要である。したがってこれから新エネルギーは小規模分散型システムの発電利用が適している」と語りました。

テクノ君レポート



新製品「だんけつクン」の開発を紹介
今回はテクノのF/S支援制度を活用して階段ボール圧縮・結束用収納ケースを開発した北斗型製作所を訪問し、社長の遠藤正夫さんにお話しをお聞きしました。

テクノ君 今回の開発されたのはどのような商品ですか。
遠藤さん はい、使用済みの段ボールを圧縮して、結束するもので女性の方でも楽々使えます。圧縮プレス用に市販の油圧リフター付運搬車を使ったことで、既存の段ボール圧縮機と比べて価格を10分の1の10万円に抑えました。継続的に段ボールが出てくる事業所で使っていただきたいですね。

テクノ君 今回の開発は郡山の機械メーカーさんとの共同開発だそうですね。
遠藤さん はい、協三さんとの共同開発です。協三さんとは、異業種交流グループのアドホック研究会と一緒に研究会活動をしています。

テクノ君 今回はテクノポリスのF/S支援制度を活用されましたね。
遠藤さん はい、試作機を製作し様々な実験を行う経費について支援いただきました。

テクノ君 テクノの支援制度から新製品が誕生してうれしいです。こんな商品を開発したいというのを考えている方には使いやすい支援制度ですから、多くの皆さんに利用してほしいですね。遠藤さん、今日はありがとうございました



Techno Information

より効果的な連携を目指して

「第4回産学・官連携フォーラム」が開催されます

が開催されます

近年、日本企業の国際競争力を強化する目的から、学術研究機関が持つ技術的ノウハウと産業界が必要とする技術的アドバンスをマッチングし、従来の商品より競争力の高い新技術・新製品の開発に結びつける産学官の連携に強い関心が集まっています。

このような状況を受け、郡山地域の産学官の協力体制の一層の効率化を図ることを目的として、毎年、日本大学工学部、テクノポリス・ユニコムが主催となり「産学連携フォーラム」を開催しております。

平成15年度の第1回助成及びF/S支援案件が決定!

「新事業の展開を支援するための助成金の交付先が、6月27日(金)に行われた平成15年度第1回技術等審査委員会が次の企業に決定しました。また、F/S支援案件も決定しています。

・研究開発助成制度
・F/S支援案件も決定しています。

・研究開発助成制度
・F/S支援案件も決定しています。

・研究開発助成制度
・F/S支援案件も決定しています。

・研究開発助成制度
・F/S支援案件も決定しています。

・研究開発助成制度
・F/S支援案件も決定しています。

記
11月7日(金)
午後1時から6時30分まで

2 開催場所
日本大学工学部 62322教室

3 プログラム
第1部 基調講演

講師 田中啓一氏(日本大学教授)

第2部 パネルディスカッション

第3部 ポスターセッション

債務保証事業

優秀な技術力・製品開発力がありながら、資金調達力不足により、研究開発を円滑に進められない企業のために、低利の福島県制度融資事業創設資金制度と連動して、当財団が無担保で2,000万円まで保証する制度です。

研究開発助成事業

研究開発活動を促進するために、企業または共同研究グループに研究開発費を経費の2/3以内で300万円を限度に助成します。

地域技術起業化支援事業

起業化の可能性があると認められる地域技術の商品開発、デザイン開発、需要販路開拓などについて外部機関へ委託する場合、経費の2/3以内で150万円を限度として支援するほか、起業化に関する相談事業、研究会活動も行っています。

地域技術起業化助成事業

複数の中小企業の協力による起業化であったり、技術革新の進展に即応した技術、製品の開発または生産等に利用するために、必要市場を開拓・デザイン開発情報収集、市場開拓・能力開発等の事業に対して経費の2/3以内で1,000万円を限度に助成します。

F/S支援制度

研究開発助成等の成功率を上げるため、開発に着手する前段階のファイナンス調査(F/S)を行う調査・企業化調査(F/S)を行う場合、経費の2/3以内で100万円を限度に助成する制度です。

※相談は随時受け付けておりますが、助成案件(F/S支援制度を除く)の締切は、11月末日までとなります。

Techno Salon



今回は知的クラスター形成事業の研究リーダーの日本大学工学部尾股定夫教授とITリエンジニアリング機構運営委員のフルネジシステムズ代表取締役の尾股定夫先生をお招きいたします。

医療産業創出の重要性

日本大学工学部 教授 尾股定夫



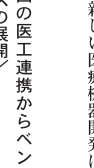
なぜ医工連携か...

戦後55年間にわたって描かれてきた我が国経済発展のシナリオは、様々なドラマを生んで今日の発展に寄与してきたが、このシナリオのほころびも今ではどこなり、わが国の進路や医療機器の開発を行って、その結果、教育など各方面に影を落とす。特に、今日の大学においてもグローバル化の荒波によって競争世界に押し出され、我が国経済復興のシナリオとして産学官連携による産業界への貢献が声高に叫ばれている。

一方欧米では、我が国がバブルを謳歌している頃既に21世紀はIT技術とバイオテクノロジーが国家の運命を左右する、と言われ危機感から、産業界のみならず大学も巻き込みながら医学と工学との融合を図り、医療機器とIT技術ナノテクの複合化システムを実現するシナリオを完成させ、10年後の現在に寄与して、成果を医療福祉関連産業は複合技術で形成されるので付加価値が高いことへ我が国の医工連携からベンチャービジネスの展開

郡山SOHO事情

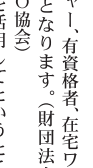
フォルト・システムズ株式会社 代表取締役 鈴木和隆



郡山SOHOネットワーク(KSN)を紹介いたします。SOHOとは、Small Office Home Office(SOHO)が対象となります。財団法人日本Office Home Office(SOHO)協会が、郡山地域ITリエンジニアリング機構運営委員会情報産業支援部会長であり、同時に福島県ベンチャー・SOHO・テクノロジー・共働機構郡山支部長も務めている関係もあり、また同役員として関係も密接です。

職員異動

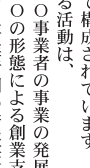
事務局長 熊田正治



熊田正治(事務局長)は、10月1日付で郡山商工会議所前職は中小企業相談所10年間に携わってまいりました。この経験を活かして地域産業の振興並びに生活文化の推進に貢献したいと考えております。ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

転出

情報技術コーディネーター 妹尾映輔



妹尾映輔(情報技術コーディネーター)は、この度情報技術コーディネーターとして着任しました。これまでの経験を活かして、地域に立って活動ができればと思います。よろしくお願い申し上げます。

編集後記

阪神は18年ぶり、ダイエーは3年ぶりの優勝で、日本が大好きな西宮立「一方」ゾーンが終了したわけでもないのに、球中継がくなく野村浩司が泣く、た東日本は「一抹の寂しさを感じます。」(巨人ファン)として監督交代劇のごたごたまで見せられ、最悪のシーズンでした。

地域振興を図るには産学官連携による新しい産業を創出していくことが重要とされています。韓国ウォンジュ市で取り組まれた医療機器産業創生の話を聞きました。地域を世界的な医療産業の集積地にしようというランドデザインを作り、自ら政府に提案し、計画を実現して、延世大学の先生方の姿に感銘を受けました。

事業がから5年間、50社ほどの医療機器ベンチャーが誕生しています。産学官連携も学が教える、学がシーズを与える、というのとは、産学官連携の意気込みが必要と感じました。

熊田正治(事務局長)は、10月1日付で郡山商工会議所前職は中小企業相談所10年間に携わってまいりました。この経験を活かして地域産業の振興並びに生活文化の推進に貢献したいと考えております。ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

妹尾映輔(情報技術コーディネーター)は、この度情報技術コーディネーターとして着任しました。これまでの経験を活かして、地域に立って活動ができればと思います。よろしくお願い申し上げます。

熊田正治(事務局長)は、10月1日付で郡山商工会議所前職は中小企業相談所10年間に携わってまいりました。この経験を活かして地域産業の振興並びに生活文化の推進に貢献したいと考えております。ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

妹尾映輔(情報技術コーディネーター)は、この度情報技術コーディネーターとして着任しました。これまでの経験を活かして、地域に立って活動ができればと思います。よろしくお願い申し上げます。

熊田正治(事務局長)は、10月1日付で郡山商工会議所前職は中小企業相談所10年間に携わってまいりました。この経験を活かして地域産業の振興並びに生活文化の推進に貢献したいと考えております。ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

妹尾映輔(情報技術コーディネーター)は、この度情報技術コーディネーターとして着任しました。これまでの経験を活かして、地域に立って活動ができればと思います。よろしくお願い申し上げます。